

令和3年2月17日（水）に第2回学校評議員会が開催されました。学校関係者評価委員会も兼ねており、学校評議員に加え、PTA会長・副会長様にご参加をいただきました。



〔各評議員等の方々のご意見やご感想の一部をお知らせします。〕

- 教育する上で学習の基本となるのがコミュニケーションである。ことばは1単語に1つの意味ではないので、非常に難しい。また目に見えるものをことばとして理解させることはできても、目に見えないものを理解させるのは非常に難しい。それは、学校だけで習得することは難しく、家庭や地域でも教えていくことが大切。家庭も大変だと思うが、地域とつながる必要があり、子どもを孤立させてはいけない。
- 聾学校の良さは、「体験して学ぶ」ということである。日頃、先生とのやり取りで疑問に思ったことはその都度質問している。買い物学習一つとっても、家庭と学校で協力して指導できている。家庭で自分の思いを話せるようになってきているので、今後は自分の障害について説明したり、援助を求めたりできるようになってほしい。
- 卒業後、学校でやったことが上手く伝わっていなかったり、身に付いてきたことが活かされてなかったりする。「こうしたらできる」ということが伝わっていない。卒業後に向けて、どう伝えていくかを十分検討してほしい。
- ICTの活用は学校でできても、家庭では難しい部分がある。家庭と連携しながらICT機器の活用を進めていくことが子どもにとってよいのではないかと思う。iPadに向かってそれぞれが勉強するというのはベストではないので、機器の取り入れ方を検討してほしい。
- 新学習指導要領に向けて学校が作成している様々なものを、学部で共有してつなげてほしい。何を学ばせるか。作成したツールをどう精選していくかを実践できる形で整理してもらえるといい。
- 小学部から中学部、中学部から高等部の引継ぎをしっかりとしてほしい。家庭での会話の中で、ことばを正しく覚えていないことに気づくことがある。小さいころから細かいニュアンスの違いなどをしっかりと教えてほしい。
- 「痛い」という表現一つとっても、どういう痛さかを説明することはろう者には難しい。手話には様々なニュアンスがある。それらは、学校の中で、家庭の中で、そして社会の中で身に付けていく必要があり、次に書くことにつなげていくことが必要。今できることは、家庭で困っていることを、些細なことも含めて全部共有していただけたらと思う。子どもが生き生きと学べる聾学校のための環境づくりをしていきたい。

この他にも、貴重なご意見を多数いただきました。学校で改善する必要があるものについては、すでに検討を始めているものもあります。今後も、学校評議員会にてご意見を拝聴し、検討および改善を進めてまいります。